

県内外で注目を浴びる八重瀬町の彼ら。八重瀬町を盛り上げてくれる彼らのこれからが楽しみ！
そんな彼らの八重瀬町への思いを伺いました。



八重瀬を盛り上げる 八重瀬の輝く人

「みそシフォン」を製造・販売する「菊みそ加工所 夢工房」の代表 平安名さんは、お母様から受け継いだ昔ながらの無添加みそを守りつつ、新しい取り組みにも果敢にチャレンジされています。「子どもたちが安心して食べられる」をコンセプトに身体に優しい商品作りを心がけ、最近では「命を大事にしたいので、できる範囲で動物性食品の使用を控えたい」と肉の代わりに大豆ミートを使った大豆ミートみそを開発。そんな平安名さんが感じている八重瀬町の魅力は「自然が豊かなところ。スーパーマーケットや銀行、飲食店もあるので、日常生活の中で不便だと感じることはありません」と話します。

<平安名陽子>

1987年に先代が始めたみそ加工所を、2005年に洋子さんがリニューアルオープン。国産大豆、国産米、県産の塩で造る昔ながらの手造り無添加みそを使った調味料や焼き菓子を製造・販売。みんなが笑顔になる商品づくりを常に心がけ、これまで様々な県産食材や町産品を活用した商品を開発してきました。

人も動物も安心して暮らせる町
快適に暮らせる程よい田舎



泡盛酒造所の杜氏や僧侶、医師、議員、看板・木工職人など異業種が集まる507通り会は「南部の中心地」と呼ばれるにふさわしいまちづくりをするため、2012年8月に結成されました。ここ数年で目まぐるしい発展を遂げ、沖縄県内の「住みたい街ランキング」では上位に挙がる八重瀬町。さらに価値を高めるため、環境の整備やイベント・ボランティアなどで地域に貢献し“人と人”を結び、地域の活性化に繋がります。程よい田舎ですが、那覇や高速インターチェンジも近く、子育て世代や若者からも注目されている街。会長は「自然は大切に残しつつ、住みやすい暮らしができるようにしていきたいです」と話します。

<八重瀬町507通り会>

国道507号の外周から富盛までの約7キロメートルを範囲とした「沖縄一の長さを誇る通り会」。事業者間の交流を深め情報を共有・活用し、環境の整備やイベント・ボランティア等で地域に貢献し、町を活性化することなどを目的に設立。

八重瀬町の価値を高めながら
地域活性化を目指していきたい



女性が輝けるきっかけを作りたい！
一歩踏み出せる環境づくり



沖縄ガールズスクエアは、新しいことを始めたい女性を応援するコミュニティー。代表の岩淵さんは「一歩踏み出したくても踏み出せない子育て中のママさんたちが数多くいらっしゃるのを感じていました」と話し、そんな女性たちが活躍できるようサポートをしています。2019年に那覇から八重瀬町に拠点を移し、気軽に立ち寄ることができるコミュニティカフェ「はたけかふえ。」もオープン。地域の魅力も発信しています。「八重瀬町にはまだ世に出ていない魅力がたくさんあり、大きな可能性を秘めていると思います。自然が豊かで、ピュアな心を持った方が多いですね。そんな方たちが活躍できる場が増えたら嬉しいです」と岩淵さん。商工会と連携し、地域に根差した取り組みも進めています。

<岩淵裕子>

沖縄ガールズスクエア代表／女性起業サポーター
ガールズスクエア認定女性起業サポーターとして、自分らしく新しいことにチャレンジする女性が活躍できる場づくりと、その女性を応援するために地域で活躍する女性起業サポーターの輪を広げることに全力で取り組んでいる。

『心休まる場所』
ずっと今のままであってほしい



幼い頃から民謡や三線に触れ、現在は民謡歌手として国内外で活躍されている新垣成世さんは、生まれ育った八重瀬町について「心休まる場所」と話します。ふとした時に立ち寄る場所は、人がほとんどいない穴場スポット「具志頭(ぐしちゃん)浜」。「中学生の頃は部活の帰りによく立ち寄りました。今でも、疲れた時や息抜きをしたい時、コンクールの前で心が落ち着かない時には自然と足が向きます。都市化することなく、このまま変わらない八重瀬町であってほしい」と新垣さん。八重瀬町出身者が作詞した「汗水節(あしみじぶし)」は働くことの尊さを歌った民謡で、新垣さんも思い入れがあるそうです。

<新垣成世>

1993年、八重瀬町生まれ。7歳から歌・三線に親しみ、平成26年には民謡大賞を受賞。令和3年には新唄大賞でグランプリを受賞。「伝統芸能も新歌も大切に」という思いを常に持ち、県内外、そして北京・上海・インド・フィリピンなどを巡り、活動を行っている。